

ニッポンの海彦たち

第26回 Gear-Lab 福山 克義さん (前編)

海・釣り・魚を支える人々

interview

「こんな釣り具あったらいいのに」そんな商品ばかりを集めた釣り具通販モールがGear-Lab(ギア・ラボ)。一般的な釣り具通販と違うところは、いわゆる普通の釣り具はひとつも売っていないこと。扱った商品はすべて、なるほど! というアイデアが盛り込まれた発明系のものばかりなのだ。インターネット上で運営されるワンダーな釣具店、ギア・ラボ代表の福山克義さんにお話をうかがった。

——今や全国に愛用者が広がっており、本誌でも何度か取り上げさせていた「根掛かりしないオモリ」(500X)。ほかにもギア・ラボで扱っている釣り具はすべて発明系のおもしろい物ばかりです。このような発明系専門の釣り具通販を始めようと思ったきっかけはなんだったのでしょうか。

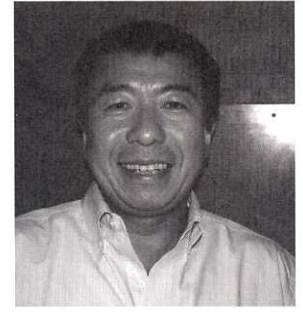
——今や全国に愛用者が広がっており、本誌でも何度か取り上げさせていた「根掛かりしないオモリ」(500X)。ほかにもギア・ラボで扱っている釣り具はすべて発明系のおもしろい物ばかりです。このような発明系専門の釣り具通販を始めようと思ったきっかけはなんだったのでしょうか。



ギア・ラボはインターネット上で運営される釣り具の通販モール。様々なジャンルのものをラインナップするが、どれも「!」というアイデアが込められた逸品ばかり。URL <http://www.gear-lab.com/>

Profile

ふくやま かつよし
1959年生まれ。根掛かりしないオモリ「ROCK」の開発を機に、インターネット上で釣り具の通販を開始。大手には真似できないフットワークで発明系釣り具の販売、開発、発掘に努め、全国のまさに逸品と呼べる(一風変わった)釣り具を販売する通販モール「Gear-Lab(ギア・ラボ)」を運営する。



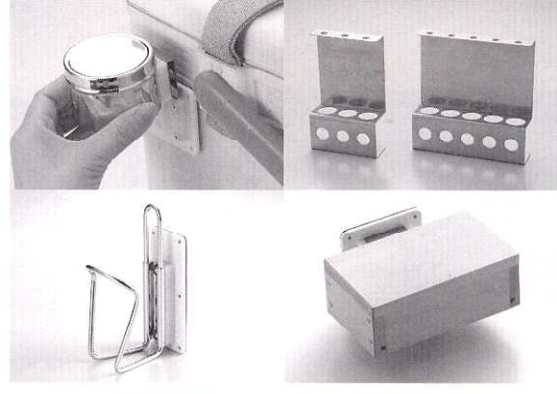
ニオイがしますね。もちろん、構いませんのでたっぷりお話をください。

私は高校生の頃から実戦空手にのめり込みまして、大学の頃は選手権に出場したり、時折はプロ空手のリングに上がったたりしながらなんとかその道で食べていきたいと思っていました。で、大学卒業後はハワイイ大学で空手の講師を3年間。まずはここで第一の失敗。あちんでアメ車が好きなってしまい、日本向けに輸出な

ハハッ、ま、失敗を糧にして今の私があるんで、一応話しておいたほうがおもしろいか。

——や、おもしろいッス、いや失礼しました。では帰国後は?

しばらくはプロ格闘家への夢をあきらめきれなくて、働きながら練習を続けていました。当時はK-1などはありませんでしたからやはり厳しく、いろいろと転々とした経緯も、包装資材メーカーの営業開発に収まりました。やっとサラリーマンになったわけ



ボは性能がすぐれた。タムグは機能性が高く、クラーはタムグの改良版。釣り用のカスタムタムグは、タムグの改良版。釣り用のカスタムタムグは、タムグの改良版。

す。ここでは様々な製品の開発に取り組みまして、いくつかの特許を取った物もあります。このあたりから、元々好きだった「モノ作り」の血が騒ぎ始めまして、そのうちに何か製品を開発して独立しようと思いはじめました。

——ではついに釣り具の開発に?

いえ、当時はヒットしなくて儲かりそうなものなら何でもよかったので、トイレの水洗関係の商品を開発しました。包装資材メーカーにいた頃、部品メーカーや製作関係にあたりを付け、私財を投じて金型を作り、特許も出願。試作品は送りました。そしてついに会社を辞めて、さあ事業をスタートさせるぞ! となったところで、私が個人になったとたん、協力を

ニッポンの海彦たちを支える人々

お願いしていた会社はごも難色を示し始めました。結局、私個人のアイデアを買ってくれたわけではなく、その後の会社の看板を見られていたのです。事業を断念したことを報告しにいったときに、取引先の若手エリートから掛けられた「所詮個人では無理なんです。起業にはお金がかかりますから」という言葉が悔しくて忘れられません。その夜は弟を居酒屋に呼んでワンワン泣きです。

——ということはまたかなりの借金を……。で、さっきの若手エリートの言葉に「今に見ておれ!」と闘志を燃やして、ついに釣り具の開発に挑むに至った。

いえ、たしかに支払いをすべて終わらせると大借金が残りまし

たが、しばらくは塗方を買ったままでした。それにしてもお金がない。当時はすでに家族がいたので貧乏がシヤレにならない。子供に「お父さん50円ちょうだい」「なんでや?」「画用紙買っけん!」……私は50円も持っていませんでした。その日の晩、飯も食べられない状況だったので、ついにカードキヤッシング。しかし、これも焼け石に水。やっと「こらいかん」と働き始め、辞めた包装資材メーカーの開発業務の委託を受けたり、私はかなり早くからインターネットを始めていたので地元のホテルのホームページの制作・管理などをして借金を返していきました。趣味として釣りに本気でハマったのはこの生活をして

福山のお気楽ニュースレター 7月号
今回は「磯・投げ情報」2009年8月号の記事でGear-Labを取り上げていただきました。なのでGear-Labのグッズとしてお気楽な話しを皆さんにお知らせさせていただきます。なおこの特集は今回が前編で後編は来月号に続く予定です。お気楽で単純な私のお話しですがお付き合いいただければうれしいです。

前半のインタビューを終えて

釣り好きだからこそこだわった！
一切妥協のなかった“ROCK”開発

発明系の釣り具というのは意外と多いが、実際には使いこなすのにずいぶんコツが必要だったり、耐久性に問題があったりするものがほとんど。アイデアをどうにか実現するとどまって、本当に使える商品としては磨き上げられていない物が少なくない。ROCKの開発にあたった福山さん兄弟は大変なアイデアマンで泉のように素晴らしい考えが浮かんできたわけではなく、先端のハイテクで開発に成功したわけでもない。何十回も海に潜って実際の根掛かり具合を観察するという、大変地道でローテクなフィールドテストの積み重ねによって、小さな閃きが集まったのがROCKなのだ。そして、その努力が「実におもしろかった」というのは、本当にモノ作りが好きで、そして何よりも釣りが大好きだからにほかならない。楽しかった思い出を語るように開発の経緯を話してくれた福山さん。「これができれば投げ釣りがもっともおもしろくなるはず！」開発動機の大部分はそんなところだったのでは？

釣行は自然、商品テストを兼ねたものとなる。ヒラマサ74cm、4.7kgは佐賀県呼子でのショアジギングの釣果



「釣りにハマったということ、は、今度こそROCKの開発スタートですか。それともまた何か失敗が……。」
大丈夫です。この頃にはすっかりハイリスタックハイリタンの販売には関心がなくなっていました。ROCKを作り始めたのはちょうど借金を返し終えた頃でした。ROCKの原形となるアイデアを思いついたのは私の弟なんです。
「よかもん考えたっちゃけど、FAXするけん見てん」「なんや、また変なもんは思いついたとや？送ってんやい」こんなやり取りから始まりました。形は棒状一番下にオモリ、その上が浮力を



ROCKの開発経緯を実に楽しそうに話してくれた福山さん。ギア・ラボの商品はどれも我が子のごとく

持たせて全体を立てるためのパイプという基本的な構造は今と変わりませんが、最初に作ったのは長さが1.2mもありました。さっそくガチガチの岩礁に投げた実釣テストしてみると、たしかに何度投げても根掛かりしない。こりゃよかばい！と、商甲として売ることを目的に2人で本気で開発することになりました。
「……？全然根掛かりしないのならそれでもう完成だったのでは？ たしかに今の製品とはずいぶん違いますけど、長すぎですし……。」
そうなんです、1.2mはさすがに長すぎて今イチ投げづらいし、スマートさ、爽快感が足りない。現実には釣り場に何本も持っていくのは大変です。そこで短いパイプでいろいろなバリエーションを作ってテストしたところ、飛び方は上々でしたがたまに根掛かりするようになりまして。まあ、オモリを20個も持つて行って根掛かりのたびに仕掛けを作り直すことを考えれば全然ましな程度なんです。やはり到底満足するまでにはいきません。
「やはり長さの問題ですか？それとも海底の形状が……。」

たねえ。結局「これでいいこう」という満足のいくものができるまでに一年以上かかりました。納得のテストを経て、帰りのフェリーで飲んだビールはおいしかったですね。
「うーん、大変おいしそうなビールですねえ。長期間の開発お疲れ様でした。これで発売と同時に大ヒット！そしてギア・ラボ誕生へ……と行きたいところですが、今までのパターンだとどうじゃないんですかね？」
当時は「みんなの釣り具研発室」というホームページ上で、細々と販売を開始しました。最初の月商

ニッポンの
～海・釣り・魚を
海彦たち
inter view
支える人々～

ニッポンの
～海・釣り・魚を
海彦たち
inter view
支える人々～

「そつたい、見ればわかるったい！」10月中旬で結構寒かったのですが、弟が服を脱いでドボン。ところが、道糸を通ってオモリの所まで行ってみると、オモリはイメージどおりに立っていて、しかも引く張るとなんの抵抗もなくスルッと抜けるではないですか。根掛かっていた原因はテコの原理。割れ目を入ったオモリの上部を道糸が斜め横方向に引く張りますので、割れ目の出口が支点になってガキッとハマってしまっていたわけです。なので真上に引く張るとすぐに抜けた。
「なるほど、たしかにただの棒状のオモリならわりと昔から根掛かり対策としてアイデアはありましたが普及はしませんでしたものね。ということはこれを解決するのは大変だったんじゃないですか？」
いや、それが基本的にその場で解決してしまっただけです。偶然ですが、1本だけ根掛からないのがあったんですよ。ほかの試作はすべてパイプ部分に弾力性はあるものの硬

「そつたい、見ればわかるったい！」10月中旬で結構寒かったのですが、弟が服を脱いでドボン。ところが、道糸を通ってオモリの所まで行ってみると、オモリはイメージどおりに立っていて、しかも引く張るとなんの抵抗もなくスルッと抜けるではないですか。根掛かっていた原因はテコの原理。割れ目を入ったオモリの上部を道糸が斜め横方向に引く張りますので、割れ目の出口が支点になってガキッとハマってしまっていたわけです。なので真上に引く張るとすぐに抜けた。
「なるほど、たしかにただの棒状のオモリならわりと昔から根掛かり対策としてアイデアはありましたが普及はしませんでしたものね。ということはこれを解決するのは大変だったんじゃないですか？」
いや、それが基本的にその場で解決してしまっただけです。偶然ですが、1本だけ根掛からないのがあったんですよ。ほかの試作はすべてパイプ部分に弾力性はあるものの硬



驚くほどの根掛かり回避性能を持つROCK。フロントによって海中では立ち姿勢となること、そして柔軟性を持たせることでテコの原理による食い込みも避けるのがその秘密

はたった3000円でしたが、いや〜とにかううれしかった。一人のお客さんが買ってくれたのですが、うれしくてお礼の電話をしちゃいましたよ。お祝いに弟と居酒屋に行って1万円ほど使っちゃいましたので大赤字ですけど。それと、当時はラジコンフィッシングボートの製造販売もしていました。これは釣り好き、メカ好き、ヨット好きなどの仲間と4人で作っていたのですが、ほとんどワンオフの手作りなので一台の販売価格が20万円くらい。なかには「釣りキチ三平に登場するのとまったく同じのやつつくって」なんて注文もあって80万ほどで売りました。
「もしかしてメカ政のアニキのアレですか？ではラジコンボートのヒットを機に……。」
ラジコンは手が掛かりすぎて、いずれも儲けはほとんどなし。趣味の延長線上で本気の商売ではありませんでした。ただ、「何かおもしろいことをやっている人たちがいる」ということで、ROCKのことも含めて地元テレビに何度か取り上げられたりしました。
ROCKは細々ですが売れ始

い素材を使っていたのですが、それにはたまにま軟らかいチューブを使っていたんです。つまり、中間部が軟らかく曲がることでテコの原理があまり働かない。まさにヒョウタンからコマでした。
「なんと、キモとなる柔軟性にはその場で行き着いてしまっただけですか。じゃあもつほどど完成じゃないですか。」
いえいえ、ここからが長かったんです。下のオモリ部分も硬いとそこだけでテコの原理が働いてしまうので、ここも柔軟性を持たせなければならぬ、深いと水圧でパイプが潰れる、水温が低いとパイプが硬くなってしまっ、棒状の姿勢が保てないほど軟らかすぎても余計に食い込んでしまったり、パイプの中の浮力材の素材見た目の格好さ、何かが問題に